陳述書

平成27年 11月13日

住所 神戸市中央区下山手通4-2-13

署名 笠岡和雄

1　執筆者の人物像

私は,大日本新政會総裁・二代目松浦組組長の笠岡和雄です。

私は,若い頃から任侠道に精進し,いわゆる堅気の人間ではありません。また逮捕歴・前科等もありますが,ここで陳述した内容に嘘偽りはなく,全て私自身が,自分の目と耳で見聞した事実に基づいて書いております。裁判官におかれましては,どうか偏見なく,読んで頂ければ幸いです。

2　執筆の動機

吉松さんと被告・谷口元一氏との本訴訟の原因となった谷口氏が吉松さんに対して「自分たちの傘下に入れ,さもなくば芸能活動が出来なくなるぞ」という強要と言ってもいい要求や,それが断られた後,メディアを利用して家族まで巻き込んだ常軌を逸した嫌がらせやストーカー的行為,スポンサーに対する圧力といった対応などは,私自身が,バーニングプロダクション代表取締役社長の周防郁雄氏との交流の中で.見聞した事実と一致する点が多く,また一人の女性を大の男たちが集団で虐めるやり方に義憤を感じましたので,陳述書を提出することを承知しました。

なお,本陳述書を提出するにあたって謝礼のようなものは,私は一切受け取っ

ていないことを，申し添えておきます。

3　私自身の立場

私は，約１０年間に渡って，ある人物から紹介された周防氏の依頼により，周防氏のいわゆる用心棒的な役割を果たしていました。その間は，周防氏の所有するビルの５階の一室に事務所を構え，やはり周防氏の紹介したマンションの一室を関東における自分の住居として利用していたのです。直接の貸主は，周防氏に依頼された寺の僧侶が，また貸しOKの条件でヤクザである私に貸していました。

その後に周防氏から，私に対する許しがたい裏切り行為があり，私が主催する愛国団体『大日本新政會』のブログで，私自身が用心棒時代に見聞してきた事実を中心に，周防氏のこれまでの悪業の数々について糾弾を続けております。

なお，周防氏と本訴訟の当事者である谷口元一氏の関係は，いわゆる親分子分の関係です。これは芸能関係者なら誰でも知っている事実です。私自身も後で述べるように，それを裏付ける状況に遭遇しております。

4　本訴訟との関わりのある陳述者の証言

ア，周防氏がヤクザを利用してきた事実

イ，周防氏や谷口元一氏が，彼らの意に反したと見なした芸能人をヤクザや右翼等も使って活動出来ないように，本人もしくはプロダクションやテレビ局等にも圧力をかけてきた事実。

ア，については，私自身が周防氏の用心棒をしていた事実が何よりも確かな証拠です。

もし周防氏が，「二代目松浦組組長の笠岡和雄なる人物など知らないし，そうした人間に，何らかの依頼をした事もない」と言うのであるなら，法廷で，周防氏と直接対決することも　厭いませんし，むしろ望むところです。

イ，については，大日本新政會のブログには，私自身の体験を下にして大日本新政會で執筆した記事の中に，周防氏が，谷口元一氏に対して．女優の水野美

紀さんを「芸能界から抹殺しろ」と指示する情景が記載されています。

5　「水野美紀を抹殺しろ」周防氏の谷口元一氏への指示

（大日本新政會のブログよりの引用）

周防「（笠岡）会長，なんとかこのホームページ潰していただけませんか？こんな事を堂々と書かれたら潰すしかありません。この女ごと殺してください」

笠岡（註釈・陳述者）「殺してくださいって，社長どういう事や？　我々業界人にそんなこと軽々しく言うと勘違いされるで？」

周防社長は，また黙り込んだ。

そして，

周防「芸能界から消して下さい，水野美紀を居なくなくしてください」

というのだ。

周防「いや，会長。このまま，水野が独立しようものなら，バーニングのメンツがありません。いくら金がかかってもいいので，潰してください。お願いします。抹殺してください」

笠岡「社長，殺すとか抹殺するとか，そんな言葉使うの止めとき」

と一喝した。

その後，笠岡は周防と相手側（註釈・水野美紀）の和解の仲介をしたのだが，不安に思った笠岡は，　周防の会話を録音。

話のあと，一人部屋に残った周防社長の会話が記録されていた。

周防「谷口（ケイダッシュ），すぐに各局のプロデューサーに電話して，水野美紀はどんなことがあっても使うなと通達しろ！どんな企画でも，番組でも，紙面でもだ。背いたらバーニンググループのタレント全部引き上げると言え，潰してしまえ！街宣車，右翼を送り込むと言え！」　（引用おわり）

私が，周防氏の用心棒時代に，周防の愛人だった元バーニングプロダクション所属の女優だった水野美紀さんを，周防本人から抹殺しろと依頼された時の情景を再現した大日本新政會のブログの内容です。

私は，「殺してください」「潰してください」「抹殺してください」とか興奮して尋常でない言葉を口走る周防氏を宥める一方，水野美紀との仲を取りもつことにしました。表面上は，周防氏も私の説得を受け入れて， 周防氏の愛人だった水野さんが，彼の秘密を世間に公表しないことを条件に，和解したのです。

ところが，周防氏は和解したふりをしただけで，谷口氏に指示して「水野美紀を使うな」という通達を各局のプロデューサーに出すことを命じました。

これは仲介した私や関係者の顔に泥を塗る卑劣な裏切りです。私の手前があるので，周防氏は自分で動けないから，谷口氏に命じました。つまり周防氏と谷口氏は一体であり，また各局のプロデューサーも，周防氏をバックにした谷口氏から「タレントの誰それを使うな」といった指示をされれば，その指示に逆らうことが難しいのです。

次に周防氏がなぜ水野美紀さんを恐れたのか。その理由とは周防氏が世間に知られることを恐れた秘密を彼女が知っていたからです。さらに周防氏が私が仲介した和解の約束を無視して，谷口氏に指示して各局のプロデューサーに「水野美紀を使うな」と通達をさせた結果の顛末について，大日本新政會のブログにある記述から引用します。これを読めば，周防氏がなぜそこまで一人の女優を芸能界やメディアから追放したかった理由が理解されるでしょう。

6　なぜ周防郁雄が水野美紀の抹殺を谷口元一に指示したのか

大日本新政會のブログより

●ドラッグSEXを暴露！　元愛人・水野美紀の″抹殺″を依頼した周防の逆ギレと醜態！

周防郁雄本人が，クスリの常習者であることを指摘する元愛人の暴露発言があった。元バーニングの所属タレント水野美紀である。

彼女は，周防の愛人だった頃に知った，クスリを使用した陰湿なＳＥＸについて作家の宮崎学が主宰するホームページ上で暴露した。

これは宮崎と高木,水野の三人座談会での暴露発言だったが,記事を読んだ周防は逆上し,当時,周防のトラブル処理を請け負っていた笠岡総裁に懇願した「総裁,水野美紀を芸能界から抹殺してほしい,いや殺してくれ！」と錯乱状態でお願いしたそうだ。

なにぶん元愛人水野からの,直々の証言がネットで流されたのである。周防がうろたえるのは分かるが,「水野を潰してくれ」とはいささか物騒な依頼だった。しかも、面子を潰された周防は,その後テレビ画面に水野美紀が現れると,顔面蒼白,周囲の取り巻きに当り散らすなどみっともない醜態を晒していたようだが,芸能界のドンと呼ばれた男が,たかが元愛人の暴露発言ごときで,取り乱すようでは男が廃るというものだ。周防自身も,人生の教訓として,寝床の話などその腹の奥深くに仕舞っておけばよいのだが,怒りと怯えでトチ狂った周防郁雄の言動がそのあと大問題を巻き起す。特に周防の都合のよい二枚舌に,多くの人間が翻弄され,また裏切られてゆくのは,およそ男の世界,任侠の世界では決して通用しない。それほど軽薄な返答が繰り返されてきた事をあえてこの場に記す。

●仲介役、笠岡総裁との固い約束を全て破った周防に西脇組が怒り心頭の報復宣言！「仁義なき戦い」はここから始まった！

悪徳の限りを尽くして芸能界で伸し上がってきた周防郁雄を恨む業界人は多い。その用心棒役を関東の大親分の奥方から依頼され,多少の事は大目にみてきた笠岡総裁であったが,この水野美紀の暴露騒動を治めるべく動いた交渉条件（約束事）を全て破った周防郁雄に,さすがの総裁も堪忍袋の緒が切れた。その経緯について簡略に述べる。

バーニングプロと決別した水野美紀は,しばらく芸能界から干され,姿を消していたが,その後,水野の面倒をみたのが関西の西脇組である。その威光もあって周防を挑発する水野の暴露発言が出たのだろうが,同組と懇意である笠岡総裁が仲介役となれば話は早く,早速に窓口である宮崎学と話し合った結果,次の結論が出た。笠岡総裁の話では,「水野も芸能界から一度は干されたが,今は独立して活躍しているだけに今さら芸能界から排除することはできない。しかし今後、

周防郁雄の愛人だったことなど周防の秘密は決して他言しない」というのが水野側の提案だった。この和解条件を聴いた周防は「分かった」と了承し,笠岡総裁に固く約束したのである。

ところが,周防の言葉はその場しのぎの嘘だった。腹の虫が収まらない周防は水野美紀を潰すために,グループ傘下,ケイダッシュの谷口を指名し,テレビ各局の芸能プロデューサーたちに脅しをかけた。

「今後,水野美紀を番組に出せば承知せんぞ!」と。

この稚拙な脅し文句にうんざりした局のプロデューサーから,この話は自然と漏れた。芸能界は狭い業界である。すると,この約束違反に猛然と怒りを示したのが水野美紀を支援してきた社長グループの一人,西脇組の山下であった。山下は,「ふざけるな。俺が谷口をいわす!男の約束は命より重い事を思い知らせてやる!」と叫んだ。

するとこの威嚇発言に腰を抜かさんばかりに驚いたのが周防である。山口組の武闘派軍団としてその名が轟く関西の雄,西脇組が本腰をあげて動けば,周防など木っ端微塵である。

「逆に周防を潰せ!芸能界から追放しろ!」との指令を聴いた周防は,もう頼れる親分がいないため,性懲りも無くまた笠岡総裁に詫びを入れて泣きついた。

「殺されます。どうか総裁の力で止めて下さい」と懇願する周防に,哀れさを感じた総裁は,心中の?(疑問符)を打ち消しながら,再度,周防に対して戒めの言葉を告げた。

「いいか二度と水野美紀の追い込みをやめろ。谷口にそう伝えておけ」?と,噛んで含ませ周防を諭した。

「分かりました。今度こそ間違いなく水野は許します」

この周防郁雄の言葉を信じ,周防襲撃に備えていた山下に伝えると,山下も総裁の仲介ならばと仕方なく了承し,騒動は一件略着したのであるが,これも,しばらくすると又ウラでテレビ局への恫喝など,水野美紀芸能界排除攻撃は続いていたのである。

こうして度重なる周防の裏切り行為に，ついに周防との決別を決意した笠岡総裁は，当時の緊迫した光景と，怒りの思いを振り返りながら深くため息をついた。

「周防は，何処まで行っても，面従腹背の性格は直らんもんだな。しかしこれが最後の警告になる」

周防郁雄，総裁のこの言葉の意味を深くかみ締めておくことだ。

愛人とのドラッグＳＥＸに耽りながら，ネット暴露記事に悲鳴を上げ，西脇組の報復に逃げ惑い，さらに一度裏切った恩人に懇願し，また裏切りを繰り返す周防郁雄は，実に哀れな男である。周防の最後は，孤独と悲惨を極めるだろう！なにぶん，この２０年間に芸能界に広がった麻薬（覚醒剤，ヘロイン，シャブ）の量は膨大である。日本の芸能界に麻薬汚染を広げてきた周防郁雄の罪は重い。

特に，芸能コンサート会場における麻薬の斡旋，紹介は，周防グループが，その源である。日本の芸能界に麻薬汚染をバラ巻いた周防の罪の償いは，周防自らがとらねばならないと，重ねてこの場で警告をしておく！

「大日本新政會」報道部

7　結語

周防氏も谷口氏も，全世界に公開されたインターネットでの彼らに対する私の糾弾や非難に対して，訴訟はもとより，抗議や弁解すら出来ないのです。

なぜなら，事実に基づいているからです。

吉松さんに対して取った谷口元一氏の行為も，彼らがヤクザを利用し，芸能界という狭い業界内において，「芸能界のドン」などと呼ばれ，思い上がってきたからこその所業と言えます。格闘技イベントK-1のプロデューサーで．格闘技プロモーターでもある石井教義氏を使って，吉松さんを周防氏の事務所に連れて行き，周防氏を「芸能界の掟を決める」人物として紹介させ，独立を支援する見返りに，周防氏や谷口氏のグループに入ることを要求し，谷口氏に面会させようとしたのも，脅しのようなものです。普通の人間なら，石井氏の風貌や体格を見ただけで威圧されて言いなりになってしまうでしょう。

私も一時期，彼らに利用された時期がありました。

弁解じみて聞こえるかも知れないですが，芸能は興行の関係上，地元のヤクザとのトラブルが絶えません。私は，当初ヤクザ対策として用心棒役を頼まれたと思っていました。事実，後に周防氏のマッチポンプだったことが判る銃撃事件の直後に，周防氏は私に用心棒になる話を持ちかけてきたのです。女優を「潰してください」とか，「抹殺してください」などという依頼が来ることは，用心棒になる依頼を受けた当初は想像もしていませんでした。

「自分たちの傘下になれ，さもなくば芸能界から干すぞ」というのは，芸能界の掟を決めるのは，自分たちだと逆上せ上がっていたからこそ，口に出てくる言葉です。

裁判所におかれましては，これ以上の吉松さんの芸能活動に対する圧力や妨害行為を止めさせる判決を出すべきです。なぜなら，私の体験からも,谷口氏や周防氏の影響力が芸能界やメディアに残っている限りは，一旦は圧力が収まったように見えても，日本の芸能界における吉松さんの芸能活動は，今後も妨害を受け続けると思われるからです。

また，私を含めて多くのヤクザを節操なく利用して，「芸能界のドン」と呼ばれていた周防郁雄氏の威を借る狐のごとくに振舞ってきた谷口元一氏に対しても，厳しい判決が下されることを期待します。なぜなら，ヤクザを利用し，この国の芸能界における健全な発展を妨げ，芸能界を志す真に才能ある若人の活躍を妨げているのが，周防氏や谷口氏だからです

老い先短い私の，愛する日本国への最後の奉公のつもりで，この陳述書を認めました。

以上